

◎景気ウォッチャー調査[2023年2月]

2023年2月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を4.2ポイント上回る49.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあり、以前は客が感染を気にしていたが、最近は気にしないで来店する客が増加しており、来客数は新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻りつつある。また、全国旅行支援の利用客が多くなっている。」(一般レストラン)、「新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、旅行や行事への参加に伴う衣料品や雑貨類の需要が増加している。」(百貨店)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.3ポイント上回る48.9となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を1.5ポイント上回る49.2となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「2024年卒の企業の新卒採用予定数は、前年並みが5割強、増加する企業が約3割と、2023年卒以上に採用意欲が増している。企業の経営状態の好転、既存事業の拡大、2023年卒を採用できなかったことなどが主な理由である。」(求人情報誌製作会社)、「前月と比較し、求職者の応募数が1.4倍増加している。新年度の入社を目指す人やまだ内定がもらえていない学生層からの応募が多くなっている。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント上回る53.1となった。

	2月	1月	前月差
合計	49.4	45.2	4.2
家計動向関連	48.9	43.6	5.3
企業動向関連	49.2	47.7	1.5
雇用関連(参考値)	53.1	51.6	1.5

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を4.5ポイント上回る53.8となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「G7広島サミットの開催や規制緩和により、海外からの渡航者数が増加する。また、マスク着用が個人の判断にゆだねられるなどの行動制限の緩和で、国内で開催されるイベントが増加するため、景気は良くなる。」(都市型ホテル)、「客の新型コロナウイルス感染症に対する警戒感が薄れること、春物衣料品や雑貨の需要が増加すること、各メーカーの商品生産が増加することにより、売上の増加が見込まれる。」(百貨店)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.7ポイント上回る54.6となった。

企業動向関連は、「良くなる」の回答の割合が減少したため、前月を0.7ポイント下回る48.5となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少したため、前月を7.8ポイント上回る59.4となった。

	2月	1月	前月差
合計	53.8	49.3	4.5
家計動向関連	54.6	48.9	5.7
企業動向関連	48.5	49.2	-0.7
雇用関連(参考値)	59.4	51.6	7.8